

2011 年 08 月 15 日号	JAC 00会 NEWS LETTER	発行：日本山岳会 00 会 発行人：佐藤 允信 編集者：本間 正士
-------------------	----------------------------	---

2011 年度 00 会総会開催

都合により 1 カ月遅れで本年度の総会が 7 月 19 日(火)、6 時 30 分より JAC 会議室で開催されました。佐藤会長の挨拶と総括が報告された後、会計が佐々木さんより報告、綿貫さんの監査報告で承認されました。

平成 22 年 4 月 11 日：日立、花の百名山「高鈴山」参加者 9 名
6 月 9 日～10 日：独鈷山・蓼科山 参加者 8 名
8 月 24 日～25 日：四阿山(あずまやさん) 参加者 6 名
9 月 29 日：笠取山 参加者 6 名
10 月 28 日～29 日：富山支部交流登山「ハケ岳」参加者 6 名、富山支部 5 名
12 月 22 日：忘年山行「丹沢・高松山」参加者 9 名
平成 23 年 1 月 28 日：新年山行「箱根湯坂路とひめしゃらの湯」参加者 8 名
3 月 26 日～27 日：守門岳雪庇鑑賞ツアー(中止)

本年度の山行計画は以下のようになっています。

平成 23 年 4 月 13 日～14 日：高尾山テント山行 参加者 7 名
6 月 7 日～9 日：尾瀬テント山行 参加者 8 名
6 月 23 日～24 日：谷川岳エーデルワイス山行(悪天のため中止)
9 月 4 日～6 日：富山支部交流登山 a t 立山(担当：佐藤)
10 月 25 日～26 日：安達太良山紅葉山行(担当：副島)
12 月 21 日：忘年山行(丹沢)(担当：綾部)

平成 24 年 1 月：新年山行

3 月：守門岳雪庇鑑賞ツアー(担当：本間)

会費について余剰金が増えているので当分の間会費の徴収を行わないこととしました。

新しい会員として山城さんが加わりました。

また山行についても計画以外でも随時誘い合って実行しようとの提案が会長からあり、早速翌 20 日から日光の志津小屋と唐沢小屋を利用して男体山と大真名子山、小真名子山、女峰山山行に 5 名の参加で行われました。

出席者：佐藤会長、佐々木、綿貫、酒井、副島、綾部、吉田、本間

「00 会 6 月山行」 残雪の尾瀬・テント泊

日時 平成 23 年 6 月 7 日～9 日

コース 7 日代々木バス・ミナルバス・戸倉・バス・鳩待峠＝ヨッピ橋＝竜宮小屋＝下田代十字路テント場泊

8 日 燧ヶ岳往復

9 日 白砂峠＝尾瀬沼尻小屋＝長蔵小屋＝三平峠＝一之瀬休憩所＝大清水・バス・新宿

参加者：佐々木・佐藤・副島・本間・吉田・綿貫・山城・綾部

「00 会」初めての本格的テント山行にも関わらず 7 人もの参加があり、佐藤さんの山仲間の山城さんが入会されるということで、8 人パーティーとなった。

代々木のバス・ミナルから 7:20 分出発。ウィークデイにも関わらず、満席に近い乗客があり、さすが尾瀬だなと思った。道路はすいていたので、予定どおり戸倉につき、10:50 の鳩待峠行きのバスに乗継ぐ。いい天気になった。

いよいよ尾瀬の一角につくと、小学生の遠足のグループやツアー会社のグループなどで混雑していた。いつものように副島さんの準備体操をして歩き始める。山の鼻までは対向者が途切れることなく続き、ザックが重



くゆっくりペースの我々は何人かの人に抜かれながら山の鼻に到着。途中山城さんのザックから水漏れがあり、中を開けると缶ビールのタブが何かのひょうしで開いてしまったというアクシデントがあった。

尾瀬ヶ原を見渡してびっくりした。水がない。十数年前の同じ時期、雪解けで木道が水に埋まっていた所もあったのに……。そのときの光景がうそのように原っぱが広がっていた。やはりどんどん乾いてしまっているのかとさびしい気になった。

水芭蕉、ショウジョウバカマ、タテヤマリンドウ、リュウキンカなどの花を見ながら、「ヨッピ橋」―「竜宮小屋」―「見晴し十字路」と歩いて 16:20 テント場に到着。8人のうち5人は一人用テント。佐々木さん、綿貫さんと綾部は4〜5人用のテントに入ることになっているので、3人でにぎやかにテントを張った。一息ついてから夕食の支度に取り掛かる。板切れや倒木を集めた急ごしらえのテーブルを囲み、本間さん特製のとん汁をいただきながら、もちろん男性陣はお酒を飲みながら話が弾む。初参加の山城さんの人生経験に全員感心。夜はかなり冷え、寒かった。



8日 それぞれに朝食を食べ7:30 燧ヶ岳登山に出発。十字路から尾瀬沼方面に木道を進み、分岐を左に折れる。しばらくは小さな流れに沿って歩く。ほどなく雪の登場となった。

しばらくはつぼ足で歩いたが、傾斜が増してきたので、アイゼンをつける。高度が上がるにつれ尾瀬ヶ原、至仏山が見渡せるようになった。下りも同じ道を通るので、そのときは難儀するだろうなと心配しながら一步一步高度を稼ぐ。私は荷物をちょっとでも少なくするため、古い4本歯の軽アイゼンにしたが、雪団子がすぐできてしまい後ろを歩く本間さんにストックで何回も掻き出してもらった。稜線に出るとさすがに雪はなかった。12:20 頂上到着。ピーカンの天気ではなかったが、周りの山々や尾瀬ヶ原一帯を展望することができた。

下りは慎重にかつ大胆に歩く。アイゼンにできる雪

団子に悩まされながら、順調に下る。傾斜もゆるくなったので、アイゼンをはずし下りはじめたが、何か変。“登りにこんなところと通ったっけ”

と不安になる。かすかながら踏み跡もあったそうだが、そういう時は確かな所まで戻るという鉄則どおりバックし始めたら、道を探していた山城さんの“見つかった”の声に戻ってみると、なんとさっきアイゼンを外した所の右側に赤ペンキやリボンなどがあるではないか。左に曲がらないで直進してしまったのだ。でも誰一人その赤色に気がつかなかったのも恐ろしい。少々ロスタイムになったがよい教訓となった。テント場到着 17:15。お疲れ様でした。2日目は立派なテーブルもできて、佐藤さん特製の肉団子汁、そして男性陣差し入れの酒や焼酎。吉田さんが途中でゲットしたふきのとうで落味噌まで作った。開放されたように歓談をいつまでも続けたかったが、周りの方に配慮して早めに終了。この夜はうまい具合にあまり冷え込まなかった。

9日、朝食を済ませ、テントを片付け、帰りのバスの時間から逆算し、7時出発。昨日歩いた木道を再び通り尾瀬沼方面に進む。木道が設置されているが、雪がかなり残っていて、埋もれているところも多かった。8:45 白砂峠到着。峠の標識は半分ほど雪に埋まっていた。尾瀬沼が静かにたたずんでいるのが見えた。こちら原っぱには水がなく草原のようだった。沼尻小屋で休憩し、沼を回りこむように歩いて長蔵小屋に着く。何年前か、菊澤さんがリッターでこの小屋に泊まり女主人の平野紀子さんの話を聞いて感銘した直後に、廃材やゴミを埋め立てていたことが発覚した事件があったことを思い出す。ここから尾瀬沼山荘を越えて三平峠まで若干の登り。雪に埋もれた木道を踏み外さないように歩く。転ぶとザックが重いので起き上がるのが大変。12:07 三平峠着。大きな看板に”東京電力“の文字が書かれている。木道にも東電のマークが刻印されていた所もあった。東電は尾瀬の大地主。原発の処理も大変だが、尾瀬の自然もしっかり守ってねと願う。さあ一、あとは下るだけ。途中一の瀬休憩所で休んで大清水を目指す。

梅雨時期なのに雨も降らず、全員同じ行動が取れたことをゲート手前の「山の神」神社に感謝し、14:20 大清水バスターミナルに着いた。

15:00 出発、バスは順調に走り予定どおり 19:50 混雑する新宿駅に到着した。3日間いい天気に恵まれ最高の山行でした。(綾部記)



「東日本大震災災害ボランティア」副島一義

東京新聞武蔵野版朝刊に「がれき撤去など支援活動参加を」の表題で、武蔵野市民社会福祉協議会のボランティア募集記事があり、応募、6月14日～17日の3泊4日で武蔵野市との友好都市、岩手県遠野市の仲介により、大船渡市でボランティア活動をしてきました。

6月14日（火）

テント、食料品、抜きの避難小屋泊の装備のザック、作業着セット入りかばん、ゴム長靴など入りのビニール袋を持って三鷹駅北口に集合、岩手東部観光のバスに乗り、8時に出発する。

14時30分頃に遠野市内の巨大スーパーに到着、夜食と朝食を購入した。夕食後ビールなどを飲み、学生達とも色々な話をする人が出てきた。

寝袋に入ってしまった。21:40頃と、23:58頃、03:30頃、余震があった。震度は大きくなかったが、建物が揺れる振動が大きく、3回とも目をさました。

6月15日（水）ボランティア作業1日目。

7:30 昨日のバスで出発、途中コンビニで昼食を購入、9:03 大船渡警察署の隣の大船渡VCボランティアセンターに到着する。9:30 迄待って作業班に分かれて、スコップ、汚泥収納ビニール袋、をネコ車に乗せて、現場まで5分くらいの現場に進む。作業を手配する人は愛知県社会福祉協議会からのボランティアで、作業内容も、現場も、この近所の事もよく知っていなかった。

作業現場は、4m道路の側溝の汚泥処理で、コンクリート製蓋を開け、汚泥を袋に収め、広場に積み上げた。3ヶ月雨水が流れたので、臭いはあまり残っていなかった。市民の個人ボランティア4名と我々6名のグループだったが、チームワークも好く作業は進んだ。直ぐに11:30の終了時間になり、VCへ戻り、準備してくださった洗剤で手をよく洗い、うがい剤でうがいをして、バスに置いておいた昼食持ち、外で食べました。13:00に集合して、連合から4人加わり、現場で同じ作業をした。作業員が増えたので、収納袋が足りなくなりVCへ取りに帰った。現場に戻ると、近所の人からの差し入れとお茶のペットボトルが残されていた。美味しかった。15:00 まだまだ沢山残っていましたが、引き上げた。手を洗い、うがいをして、他の班が戻ってこないで、全員が揃うまで仙台から来ているマッサージのボランティアの手当てをうけた。お土産（仏製・プラリネクッキー、岩手県薬剤師会・復興支援セットのうがい薬、消毒薬、筋肉消炎貼薬、マスク等）を貰った。

17:15 スーパーで夕食、朝食を購入、17:45 公民館に荷を置く、風呂セットを持って近所の「天の湯」18:05に到着するが、配管の故障で休み、町外れの塵＝感想＝

1)感謝します。＜物事は「段取り七分に手間三分」のとおり、準備してくださったかたへの意味です＞

2)物足りなかった。＜ボランティア作業＝体力仕事、と思いこんでいましたので・・・＞

3)遠い！疲れた。＜長時間バス移動は疲れました。でも、東北でのボランティアではこの体力が必要か？＞

焼却場となりのお湯「よねつの湯・清養園」に行き我々だけの風呂場へ案内された。自衛隊、ボランティア等々で込み合っていた。19:12 さっぱりしてバスで戻った。20:00 夕食を取る。今夜は全員が揃って色々な話をした。22:00 寝袋に入る。夜中トイレで外に出ると、満月がきれいだった。

6月16日（木）ボランティア作業2日目

7:30 同じバスで出発、昨日と同じコンビニで昼食を購入し、VCへは8:48到着、岡山県作用町のバスに乗り9:30、港側の阿部長商店・冷凍倉庫前の道路上でバラバラになった発泡スチロールをトン袋に詰める作業です。防塵マスクが手配される予定でしたが、配布されなかったので自前のマスクをつけての作業でしたので、「言葉では表現できない悪臭」でしたが、全員暑い空の下、2人組みで競争している様にガンバりました。11:48 迎のバスに乗り、手洗い、うがいをして、全員で機能と同じ所で昼食をとり、余った時間で近所の水没した家の様子を見回りました。12:50 防塵マスクを持って現場に着き、マスクを着けました。効果は抜群ですが、鼻の脇から入る悪臭は同じでした。後少しを残した時点15:23 で向かえのバスが来たので、VCへ戻り、手洗い、うがいを済ませ、挨拶してから16:18 今日はお土産を辞退し、バスに乗る。全員服まで悪臭が漂う。17:30 公民館にもどり、お風呂セットを持ち、17:56「清養園」到着、入浴後、作業着の悪臭を洗面台で洗い流す。19:00 悪臭の無い身体でバスに乗り、19:10 売り場も慣れたスーパーで酒肴、夕食、朝食を購入しようとしたが、遅いので商品の品数が少なく、困った。19:36 公民館に戻り、20:20 全員で盛大(?)な夕食会(串団子、シュウマイ、トマト)。学生達は遅くまで談笑していたようだ。

6月17日（金）

4:45 初期・高齢者は目が覚める。寝袋を収納し、洗濯物、作業着をまとめ、帰りの準備を静かに終える。6:10 お湯を沸かし、野菜塩ラーメンを食べ、台所のガス代を来た時よりも綺麗にしてお返りする。全ての荷物を持ってバスに乗る。見送る人も無く静かに7:18 バスは出発。花巻温泉の大沢温泉8:50の有名露天風呂に浸かる。東北道・国見SA11:54で昼食(仙台名物タン焼き定食)12:40又バスに乗り、思ったより早く17:05三鷹駅北口に到着した。

- 4)復旧すらめどが立っていない。最低でも、3年は続けてください。
5)合掌。まだ見つけてもらえない方々、ほか。

無人小屋泊まり山行（7月21日～23日）参加者：佐藤、吉田、本間、副島、綿貫
(志津小屋→大真名子山→小真名子山→帝釈山→女峰山→唐沢小屋→日光)

21日、大型台風5号がのろのろ東北の海上を移動中であつたが明日には天気も好転するだろうと、東武浅草駅に集まり8:10快速電車で出発。日光駅は曇っていたので近くを散策し、昼食後水を各自持ってタクシーで男体山の裏側の志津小屋まで入る。天気は青空になった。小屋は誰もいない。荷物を置いてから近くを散策。下界は一面の雲海であつた。夜は久し振りに見る満点の星空であつた。

22日、5時起床、穏やかに晴れ小屋前から珍しい滝雲の流れを見た。副島・綿貫両氏は男体山を超えて中禅寺湖に下りることになっていて7:15小屋前で分かれ互いに出発する。佐藤・吉田・本間の三人は、志津乗越の登山口から間もなく急な登りを登る。雲海は眼下に広がり、振り向けば男体山が手の届くように見え副島さんの声であれば聞こえるのではないかと呼んでみた。日光白根山もよく見えた。険しい岩稜を鎖に助けられながら登り、9:45大真名子山(2,375m)山頂に着く。素晴らしい景色を楽しみ唯一我々を追い越して行った若者にシャッターを切ってもらい小真名子山に出発。急坂の道を下り鷹の巣のコル広い所からまた急な坂を登り返す。11:52小真名子山(2,323m)山頂到着。ガスが山頂まで上がってきたが日射しが遮られて良かった。昼食をして12:35電波反射板の横を回って富士見峠に向かう。帝釈山を見ながら急なガレ場を下り13:15富士見峠に着いた。



22日朝、志津小屋前で

帝釈山はここから400mあまり高度を稼がなければならない。途中山ガールのカップルと中年夫婦の登山者に会ったが静かな山であつた。帝釈山(2,455m)に15:00着く。女峰山の最後の登りはぼろぼろした岩の痩せ尾根で久し振りにスリルを感じた。女峰山(2,483m)に16:05着く。富士山も見えるはずだったが・・・、しばし景色を眺め唐沢小屋まで下る。17:00

到着。長い歩きだった。先着は2名だった。佐藤さんと小生は水場までさらに下った。案内書の10分では行けなかったが冷たい美味しい水が湧き流れ落ちていた。小屋は20～30人くらい泊まれそうな立派な建物である。先客の2人が先に寝てしまったので食事を早々に済ませ20:00前に寝袋の中にもぐりこんだ。この夜も素晴らしい

星空だった。暗闇の中で用をしているときに流れ星も見た。

23日、唐沢小屋を7:30出発。快晴・無風、下界は雲海の中だ。日光白根山は大真名子山と小真名子山の間によく見えた。今日は富士山も見えた。笹の原っぱの終わり近い水場近くの木陰で昼食をとり、大木のつつじが生い茂った所から樹林帯に入る。12:40行者堂の裏に出て車道に出る。ちょうど来たバスに乗りJR日光駅に戻った。駅前の日帰り温泉で汗を流し15:01発の快速電車で浅草に戻った。きつい山行だったが充実した無人小屋山行であつた。(本間記)

富山支部交流登山 at 立山 五色ヶ原（担当：佐藤）

9月4日～6日開催決定

今年度の交流登山は、立山五色ヶ原に決定しました。4日夕方「一ノ越山荘」に集合して交流会をします。参加予定者には後日詳細を案内します。申し込みは佐藤(090-1850-4221)まで

編集後記

- ・ 猛暑の夏になってしまいました。それぞれの夏山を過ごされていることと思います。
- ・ 菊澤会員からは7月初旬より1ヶ月半スイスで涼しい毎日を山歩きしている由、グリンデルワルドから暑中見舞いのはがきが届きました。メンヒの山容の写真が懐かしく思いました。
- ・ 大川会員の瀬田の自宅にR246を通った時に訪ねてみました。胃の手術後1年余り、体重も少し増え散歩もできるようになったようで元気な話を聞くことが出来ました。涼しくなったら近くで昼の集まりでも持ちたいと会長と話しています。
- ・ 9月は恒例になった富山支部との交流登山を計画しています。ご参加ください。
- ・ 例会は8月23日(8月のみ第4火曜)、9月20日、10月18日JAC会議室で午後6時30分より行います。